

とうほく 元気 レポート

伝統の技術を伝え継ぎ、
和紙の可能性を追求

今回のレポート先
手すき和紙工房 潮紙

〒989-1502
宮城県柴田郡川崎町今宿
笹谷町80
TEL:080-3324-4588



「手すき和紙工房 潮紙」の代表である塙原英男さんは、東日本大震災の大津波でがれきに埋もれた道具を再生し、2014年春から宮城県川崎町で和紙作りを再開しました。手仕事に魅せられ、原料の栽培から、紙すき、そして商品開発までを手掛ける塙原さん。「400年の歴史を持つ伝統の技術を伝え継ぎたい」との思いを胸に、これまでにはない視点で和紙の可能性を追求し続けています。



「潮紙」の名は荒ぶる海を詠んだ島崎藤村の詩「潮音」に由来しています

東日本大震災で道具類は、がれきの中に

仙台藩主・伊達政宗の産業振興の一環として始まり、美しい風合いと布の代わりになるほど強度が特徴の「柳生和紙」。塙原さんは、「手仕事がしたくて」と勤めていた会社を辞め、その技術を現代に伝える唯一の工房「柳生和紙工房」で和紙の製法を学びました。そして、2005年から仙台市若林区荒浜にあつた障害者就労支援施設で和紙作りの指導をはじめました。

しかし、2011年の東日本大震災による大津波は、海岸から近かった施設を飲み込んでしまったのです。建物は全壊しましたが、和紙を作る道具や設備の多くは流出することなく、がれきの中に埋もれていきました。



▲代表 塙原 英男さん

水を張った「舟」に原料を加え、「馬鉄(まくわ)」でしつかりかき混ぜてから「簾杵(すしげた)」を縦横に振り動かして紙をすきます



糊となるトロロアオイの粘液(ねり)。楮やトロロアオイは塙原さんが自分で栽培しています

原料となる楮(こうぞ)

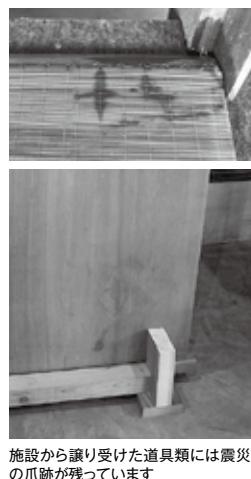
原料となる楮の栽培から始める和紙作り

塙原さんの和紙作りは、原料の「楮」の栽培から始まります。

自分の畑で育てた楮を根元から刈り取り、束ねた楮を大釜で蒸します。蒸した楮を冷水につけて樹皮を剥ぎ、その樹皮を乾かします。乾いた樹皮を一昼夜水に浸してから外皮を刀物でそぎ落とし、纖維の傷や節の跡を取り除いて白皮にします。

白皮を灰汁やソーダ灰で煮て不純物を取り、さらに水に浮かべて細かい塵を一つ一つ取り除きます。地道な作業ですが、この「塵取り」は和紙の品質を決める大切な作業です。その後、専用の機械で纖維を叩いて細かくほぐします。これでようやく下ごしらえが完了です。

工房の中には「奥羽山系の湧水」が豊富に流れています。和紙作りに良質な水は欠かせません



施設から譲り受けた道具類には震災の爪跡が残っています

「紙すきを続けたいとの気持ちがあり、柳生和紙を伝え継ぐ使命もあると思いました」。

移転を機に施設が和紙作りを断念したこともあり、塙原さんは、がれきの中から見つかった道具や設備を譲り受け、和紙作りを再開することを決心しました。

再開の地は宮城県川崎町の笹谷地区。ここには地域の方々が生活用水として守り続けてきた「奥羽山系の湧水」が流れています。紙すきに欠かせない良質な水を豊富に利用できることが決め手になつたそうです。交流があつた川崎町のNPO関係者や地域の方々の協力を得ながら、「手すき和紙工房 潮紙」を開設し、この2014年4月から本格的に和紙作りを再開させました。

良質の水が流れる笹谷で再開

たくさんの人々が関わる和紙作り

水を張った「舟」に細かくほぐした纖維と糊となるトロロアオイの根から抽出した「ネリ」を入れ、均一になるようにしつかりかき混ぜます。そして「簾柄」を縦横に振り動かして紙をすきます。すいた紙に圧力をかけて徐々に水を絞り、乾燥させれば和紙の完成です。

現在は塚原さんが一人ですべてをこなしていますが、「原料となる楮やトロロアオイの栽培は農家の方にお願いできますし、楮の皮むきは地域のお年寄りに手伝ってもらうこともできます。多くの人に和紙作りに携わってもらえば、雇用も生まれ、地域の活性化につながります」と塚原さんは言葉に力を込めます。

「手仕事の楽しさ」を体験しよう

和紙の良さを身近に感じてもらうため、工房では「紙すき体験」を実施しています(要予約)。早速、絵はがき作りにチャレンジしてみました。

まず、大小異なる木枠に網を挟んで、原料が入った水の中に入れてすきます。水から取り出して厚さが均等になるように振り動かして水を切れます。その上に色紙や毛糸を乗せて絵を描きます。

「お子さんより大人の方が紙すきや絵付けを楽しんでいますね」と塚原さん。

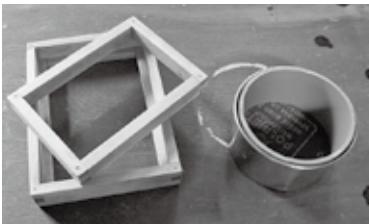
さらにもう一度軽くすき、木枠から外して乾かせば自分で絵はがきの完成です。手仕事の楽しさを満喫したひと時でした。



色とりどりの色紙や毛糸で自分の好きな絵を描いていきます



絵ができたらさらにもう一度軽くすきます。木枠から外して乾かせばオリジナルの絵はがきの完成です



紙すき体験の道具。絵はがきのほか丸形の枠でコースターを作ることもできます



紙すきの手順を分かりやすく丁寧に教えていただきました



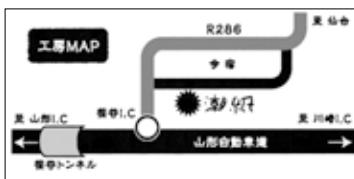
柳生和紙の流れをくむ漬紙は水や汚れに強く、摩擦があつても和紙特有の毛羽立ちがありません」と話す塚原さん



圧搾されて板状になった和紙を1枚1枚はがして乾燥させます。水分が抜けた

手すき和紙工房 潮紙

<http://www.ushiogami.com/>



手すき和紙工房 潮紙
〒 989-1502
宮城県柴田郡川崎町今宿笹谷町80
TEL:080-3324-4588
Email: ushiogami@me.com

『紙すき体験』

開催日：金・土・日曜日 9:00～15:00

製作枚数：4枚

所要時間：約1時間

会場：手すき和紙工房 潮紙

対象：5歳以上、おひとりさまから10名程度まで

費用：1,000円（税別）

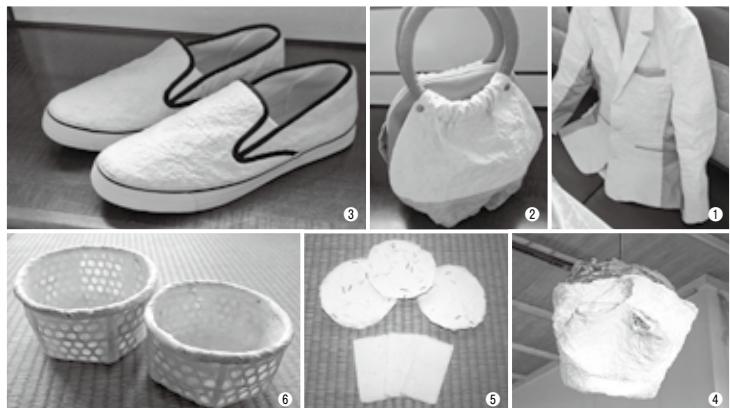
お申込：前日までにお電話でご予約ください。

連絡先：080-3324-4588

塙原さんは和紙を使った新商品の開発にも挑戦しています。工房内には、揉んで皺をつけた「揉み紙」を使ったランプシェードが飾られていました。ほかにも和紙の壁紙、和紙のジャケットやスニーカーなどを試作しています。

「デザイナーと意見を交わしながら、和紙の可能性を追求しています。従来の使い方だけでは和紙の未来は見えません。現代の生活に溶け込めるような新しい使い方を提案したいですね」と塙原さん。

また、「この工房を拠点に、様々なイベントを開催して地域を賑やかにできたらと考えています。ぜひ皆さんも気軽に立ち寄りください」と話す温かな笑顔がとても印象的でした。



1.和紙のジャケット 2.和紙のカバン 3.和紙のスニーカー 4.揉み紙のランプシェード 5.コースターと名刺
6.和紙で飾った竹のカゴ
試行錯誤しながら商品開発に挑戦しています

新商品で和紙の可能性に挑戦